

鷹野次長編『外国人のための楽しい日本語辞典』

(三省堂、2004年)**

私が初めて日本語を学んでいた頃に、教師から、「わからない言葉があったら辞書を引きなさい」とよく言われたものです。中国語では「辞書を引く」ことを「査詞典」と言います。「辞書で調べる」という意味を明確に表した用語だと思います。しかし、日本語では、辞書で調べることを「辞書を引く」というのだと知って「あ、そうなんだ!」と納得したことを今でも憶えています。そんなことを当時ホームステイしていた家で話したら、ご主人の先生が、「英語では Consult a dictionary、『辞書に相談する』って言うんだよ。同じことを表現するのでも、日・中・英で、こんな違いがある。そのことに気づいて言葉を勉強していくと楽しいよ」と教えてくれました。実際、筆者は、中国語ではこういう言い方を、日本語ではこう言うのだと知ったときに、バッグに入る小さなノートに書きとめ、それを電車の中などで繰り返し憶えたものです。そこには新しい言葉を学ぶ際の一種の「発見の楽しみ」があって、それが外国語である日本語の学習を継続する支えになっていました。

言葉について発音・表記・意味などを調べようとして辞書に頼れば、そこから「知る喜び」、「発見の楽しみ」が得られることは確かです。しかし、初めて外国人が日本語を学ぶ際に使う辞書となると、どんなものでもいいというわけにはいきません。たとえば、辞書は「使い方」がわかってこそ「活用」ができるわけですが、書かれている使い方の説明文を読解するだけの語学力がない初心者には、始めから辞書を使うような学習方法は無理なのです。そんな私の経験から、

日本語を学ぶ外国人に、もっと、わかりやすい、使いやすい辞書はないものかと、長年思い続けてきましたが、ようやく本書に出会えて念願が叶ったような気持ちになっています。

この辞典はB5版、687ページ。最大の特徴は、日本語の勉強を始めてまだ余り時間がたっていない外国の人々が、楽しく日本語を勉強できるように行き届いた工夫がなされている点にあります。

第一部の「ことば辞典」の最初には、漢字表現を極力避けて、平仮名や易しい言い回しで「この辞典の使い方」が説明されています。

「あいうえお順」に並べられている「見出しのことば」は、日本語能力試験のレベルの4級のことば(約750語)から選ばれた日本語の基本語彙です。

例をあげれば、「きいろ・い」[黄色い]のように、原則として、見出しは平仮名で示し、漢字で書ける部分はそれを[]内に示しています。さらに、キ「イロイ」のように発音がカタカナで書かれています。「からはその後ろを高く発音するアクセント記号です。「黄色い」が名詞としては「形容詞」に属し、⇒で「黄」は「おう」、「色」は「しょく」という漢字の音読みがあることを示しています。その後に「レモンのような色をしている。yellow」と言葉の意味が示され、関連語を示す「色。青い。赤い。黒い。白い。茶色い。みどり。」などが続き、さらに「例」として、「みどりの葉が秋になるとだんだん黄色くなります。」、「暗い雨の日に黄色いかさははっきり見えます」などの例文が5つ添えられています。

* 中部大学国際関係学部国際文化学科

** ISBN: 438513698X

そして最後に、「知っているに役に立つこと」として、[名]黄色。のように、「黄色い」の名詞は「黄色」であること、活用形としては、<きいろ/きいろい・きいろくて・きいろければ>があることを示しています。

上の例でもわかるように、一つの見出し語を引くだけで、その言葉の発音・漢字表記・意味・品詞・活用・関連語・例文などが丁寧に、わかり易く説明されているのです。だからこれは「読む辞典」と言えるでしょう。その中に「しりと」などの「ことばあそび」をコラムとして5箇所に折り込み、それに楽譜と英語訳の歌詞付きの日本の愛唱歌(たとえば荒城の月・故郷など)20曲、英語訳付きの新聞マンガ「コボちゃん」(8ページ)が続きます。これだけでも楽しく言葉の勉強ができるような配慮がなされている編集です。

第2部が「漢字辞典」で、日本語能力試験の4級と3級の漢字(約400語)が採用されています。ここでも「漢字の辞典の使い方」に始まり、音読みはカタカナ、訓読みは平仮名で示し、その後ベトナム語、朝鮮語、中国語(ピン音)の発音が添えられています。さらに筆順、部首、その漢字の由来、意味(英語も)、類似語、反対語、関連語などが平易な言葉で、親切に説明されています。

最後の第3部には、「日本語を楽しもう」として、アクセント、あいさつ言葉、ていねい語、擬声語・擬態語、その他の文法事項などが、用例付きで解説されています。

最近では、言葉の勉強にテレビ、ラジオをはじめ、多様なメディアが利用できるようになっていますが、言葉の学習は、読む・書くという基本的な取り組みが重要であることに変わりはありません。それだけに、とにかく無味乾燥な

詰め込み作業になりがちな初心者の言葉の学習に、「楽しさ」を導入し、親切丁寧な編集でまとめた本書を、日本語を学ぶ外国人の方々と日本語を教える教師の皆さんに紹介し、利用をお勧めします。